私たちの県のまちづくり（小学4年・社会）

（　　）小学校（　　）年（　　）組
氏名（　　）

かごしま地域交通

自動運転バス 快走

南さつま 県内初の実証実験

南さつま市は14日、県内初となる自動運転バスの実証実験を始めた。操作の一部をシステムが担う「レベル2」相当で実施し、市役所を起点に市街地を1日5往復する。運転手不足などで公共交通維持が困難となる中、持続可能な交通体系確保や地域活性化を図る。将来的には無人運転可能な「レベル4」を目指す。

バスは全長約4・8㍍、高さ約2・7㍍の電気自動車で、3次元地図をもとに時速20㌔未満で走る。車両はマクニカ（横浜市）、運行はNTT西日本鹿児島支店（鹿児島市）が担う。

乗客は最大9人。駐車車両がある道路など安全走行が難しい場面では人が操作する。市役所に遠隔監視拠点を設け、車内外をカメラで見守る。事業費は約5千万円で国の補助を活用。ラッピングデザインは地元の鳳凰高校生が考えた。

市役所であった式典には塩田康一知事ら約100人が参加。本坊輝雄市長は「通院や通学など市民生活をどう支えるかが課題。小さな町の大きな挑戦として夢と希望を託したい」と語った。

試乗した加世田小学校5年有村颯晃（はやあき）さんは「未来的な車で乗り心地も最高」と話した。期間は2週間。アプリで予約し無料で乗車できる。

自動運転バスに乗り込む小学生ら
＝14日午前、南さつま市役所

2024年12月15日付1面

【問 1】　県内初の自動運転バスの実証実験を始めたのはどこの市でしょう。

南さつま市

【問2】　「レベル2」とは,どんな内容なのでしょう。13 字で書きぬきましょう。

操作の一部をシステムが担う

【問3】　市役所を起点に市街地を1日何往復するのでしょう。

5往復

【問4】　将来的に目指す「レベル4」とは,どんな内容なのでしょう。漢字6字で書きぬきましょう。

無人運転可能

【考えてみよう】　身近な地域のバスやタクシーについて調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

実証実験（じっ・しょう・じっ・けん）＝新しい技術やサービスを社会に導入する前に、その効果や課題、改善方法を確かめる実験。
操作（そう・さ）　担（にな）う
実施（じっ・し）　往復（おう・ふく）
維持（い・じ）　困難（こん・なん）
可能（か・のう）　体系（たい・けい）
確保（かく・ほ）　地域活性化（ち・いき・かっ・せい・か）　将来（しょう・らい）
横浜（よこ・はま）　支店（し・てん）
駐車（ちゅう・しゃ）　難（むずか）しい
遠隔（えん・かく）　監視（かん・し）
拠点（きょ・てん）　設（もう）け
費（ひ）　補助（ほ・じょ）
鳳凰（ほう・おう）　支（ささ）える
挑戦（ちょう・せん）
夢（ゆめ）　託（たく）す

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布は禁止します

南日本新聞社